

試行錯誤して築いた強い絆

いま No.409
子どもたちは
森の学校 7

中高一貫校の宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校は全寮制。1学年1学級40人の顔ぶれは、6年間変わらない。寮では5年（高校2年）まで

は2人部屋で暮らす。違う環境で育った者同士が、24時間一緒にいるわけだから、けんかも起きる。きっかけはささいなことだ。言葉遣いが気に入らない、小物入れの中身を勝手に見られた、お菓子がなくなった……。

1年の大久保里南さん(13)は1学期、外に干していた布団が雨にぬれ、部屋に取り込んだら、ルームメイトに「臭い」と言われ、口論になった。気まずくて眠れないまま朝を迎えた。

「言い訳するより謝ろう」。勇気を出して「昨日はごめん」と言った。仲直りできた。

けんかがこじれ、気まずくなれば、同級生に立ち会いや仲裁を頼むことも。「全寮制でなければ、1カ月でもけんかを続けていられる。でも、ここは逃げ場がないから解決するしかないんです」と大久保さん。学校生活でもトラブルは少ない。6年(高3)の児玉梨沙さん(18)は「1年生のころ

は、とにかくよくけんかした」と話す。女子はいくつかのグループに分かれ、互いに「悪口を言われた」「あの子とは気が合わない」と言い合った。

その雰囲気を変えようと、児玉さんは同級生に「相手のいいところ探し」を提案した。

寮の洗面所に、同学年の女子17人全員の氏名を書いたポスター大の紙を張り、1人に一つずつ、いいところを見つけ、みんなが書き入れた。2週間ほどで、1人の名前の下に「いいと

ころ」が16も書き込まれた。児玉さんは「洗面所で自分のいいところを読むたび、うれしくなった」と振り返る。

3年生までは学級の女子で何度も話し合い、「グループでつるむのをやめ、一人ひとりで行動してみる」「互いの悪いところを陰で言わずに正面から言う」といった「行動指針」を決めるなど、試行錯誤しながら絆を深めていった。

「みんなが築き上げた人間関係だから絆も強い。いまは『離れたくない』って思います」

寮の部屋に集まった大久保里南さん(左から2人目)ら1年生(宮崎県五ヶ瀬町)

(斉藤純江)

